

## OHK制作ドキュメンタリー番組が 第61回ギャラクシー賞上期テレビ部門で奨励賞を受賞

### 報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井2-10-12 以下OHK）は、全国のテレビやラジオ番組の中から優秀な作品に贈られる「ギャラクシー賞」（放送批評懇談会主催）2023年度上期テレビ部門で“奨励賞”を受賞しました。

受賞したのはOHKが2023年5月に放送したドキュメンタリー番組、「幾千のときを超えて ハンセン病患者はなぜ解剖されたのか」です。この番組は、2つのハンセン病療養所で見つかった入所者の「解剖録」をテーマに、解剖に立ち会った医師や、入所者の証言などから、長く閉ざされた空間で行われていた解剖の実態を探り、偏見や差別などの社会問題を考えるという内容です。

ギャラクシー賞は、日本の放送文化の質の向上を目指し1963年に創設されました。今回の選考は、2023年4月から9月に放送された全国のテレビ番組195作品の中から、6次審査を経て決まったもので、入賞7作品に次ぐ評価を受けたということです。

OHKでは、今後も地域に根ざした放送局として、地域が直面する課題や活動取材し続け、映像を通じて全国に発信し続けてまいります。

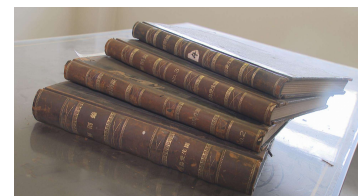
### ■番組情報

タイトル：

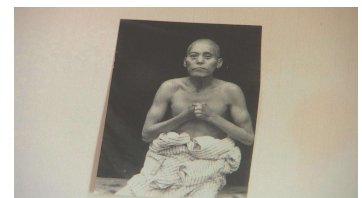
幾千のときを超えて ハンセン病患者はなぜ解剖されたのか

制作スタッフ：

プロデューサー	小林宏典（OHK岡山放送）
ディレクター・語り	竹下美保（OHK岡山放送）
撮影・編集	浦上順司（OHKエンタープライズ）
構成	梅沢浩一（フリー）



長島愛生園で見つかった解剖録、  
その数32冊に及ぶ



解剖録とともに公開された入所者の写真  
1941年に亡くなった木村仙太郎さん

### ■ディレクター竹下美保コメント

番組の本格的な取材活動は2022年9月、全国で初めてハンセン病元患者の遺族が解剖録の開示を求めたというスクープから始まりました。私たちの放送エリアには合わせて3つのハンセン病療養所があります。マスコミとして、この問題に向き合う心構えは持っていたつもりでしたが、90年以上の長い歴史と人権問題、にわか勉強ではとても追いつかない深い理解が必要でした。私は、数カ月間入所者やその家族の元に通り、一生をかけてこの人たちと関わり活動を続ける覚悟を決めたのです。難しい取材交渉でしたが、元患者や家族の皆さんは私を受け入れてくれました。あなたたちマスコミが正しく伝えてくれなければハンセン病に対する偏見・差別はなかなか解消されないと、大きな期待をかけてくれました。私に託された嘆きの声や社会への願いとともに、正しく伝え深い理解を促す…その一心でした。この番組『幾千のときを超えて』には、その信念と決意を込めました。